

「地の果てまで届いた福音」

イザヤ書 40章27～31節、使徒言行録 1章7～8節

聖学院キリスト教センター 主事 松本 周

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」(使徒言行録1章8節)イエス・キリストは、ご自身の活動した地のみならず、全世界へ、地の果てにまで聖書のメッセージは伝えられていくと語られました。

今学期、私は「キリスト教とアジア文化」という科目を担当して、キリスト教が、その誕生の地である西アジアから、地球を一巡りして東アジアに伝わってくるまでの歴史を受講生の皆さんと一緒に学びました。その中で改めて、今日の聖書の言葉を心に留めました。

今から150年ほど前、聖書の言葉に押し出された青年たちがいました。日本に来たヘボン宣教師やガルスト宣教師ら、台湾へ遣わされたマカイ宣教師、韓国に伝道したアンダーウッド宣教師やアッペンツェラー宣教師。彼らは「地の果てに至るまで、わたしの証人となる」との聖書の言葉を自分への語りかけとして聞き、遙か遠くの異国、地の果てへと旅立ちました。彼らは現地の言葉を学習し、辞書を編纂し、聖書を翻訳し、福音をのべ伝え、人々の生活向上のために働きました。そして現在、蒔かれた種が実り、教会で礼拝が守られ、宣教師たちの始めた学校や病院が、重要な役割を果たしています。福音は地の果てまで届いたのでした。

そして聖書の言う「地の果て」とは地図上のことだけではないと思います。聖書で、地という言葉はしばしば、天との対比で語られます。主の祈りに「御心の天になるごとく、地にもなさせ給え」とあるように、天は神が臨在される場所、神の御心が完全に実現している場所を指します。それに対して地とは、私たち人間が生活を営む場所、地にある私たちはときとして、天の父なる神の御心から逸れ、自分勝手な歩みをしてしまいます。神の御心が完全に実現している場所としての天、その天と断絶し神から離れてしまう私たちの場所としての地、このことから考えますと、地の果てとは神の御心から最も遠く離れている場所です。神の御心から最も遠く離れている場所、神の御心から最も遠く隔たっている「地の果て」は、私の心ではないかと。誰でも自分の心の中を真摯に見つめるならば、人には決して見せられない闇の部分を抱えているものではないでしょうか。心のこの部分だけは、どんな人にも決して見られたくない。ましてや神にはとても見せることができない、心の闇、神から遠く隔たった地の果てがそこにあります。

また「地の果て」は私たちの心の中にあるだけでなく、現代社会が神を見失い絶望するというこの中に、社会的現実としての「地の果て」がある。そのことを私は東日本大震災以降、切実に感じるようになりました。人は深い絶望に陥るとき神を疑い、自分と周囲が死と闇に覆われているようなとき、神を呪います。東日本大震災の後、「神がいるのならなぜ」「神は何をしているのか」という声がありました。激しい言葉を発させる強烈な状況、絶望的な情景が各地に広がっていた。「神の不在」を激しく

口に出さざるを得ないような、神との断絶、あらゆる絶望、死と暗黒の世界。それが「地の果て」の壮絶な光景でした。

けれども、その「地の果て」、神の御心が届いていないかのように思える絶望の地にも、確かに主なる神はいますことを御言は語ります。「あなたは知らないのか、聞いたことはないのか。主は、とこしえにいます神、地の果てに及ぶすべてのものの造り主。」(イザヤ書40章28節)神がすべての創り主であるということは、たとえどんなに神から遠ざかっている、神の救いの届かない場所はないのだ、とこの聖書の言葉は力強く語りかけています。イエス・キリストの十字架と復活の出来事とは、救い主ご自身が、神に捨てられる深淵、神の不在を経験され、絶望と暗黒の中にその身を置かれ、そしてそれらを突破して新しい命の中へと私たちを招いてくださった出来事であると、聖書は告げています。

イエス・キリストは、そのようなお方だからこそ、私たちが地の果てに立ちつくすときにも、その私たちに寄り添い、「疲れた者に力を与え、勢いを失っているものに大きな力を与え」てくださいます。そして「主に望みを置く人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」この新たな希望を与えられ、私たちは地の果てが神の国へと変えられていく幸いを経験することができます。そこに、神によってこそ与えられる平安があります。

祈り

天の父なる神、あなたは御子キリストを天から地に遣わし、あなたから最も遠く離れた、地の果てなる私の心にまで、福音を届けてくださいました。これからも聖霊なる神が、私たちに伴ってください、日々の歩みへの力を与えてください。

「御国を来たらせ給え、御心の天になるごとく、地にもなさせ給え」

救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン

2015年7月9日 聖学院大学 全学礼拝